

視察報告書 町田市議会無所属会派 吉田つとむ 2023.10.25 提出

第 28 回清溪セミナー出席報告書 2023.10.17-18

場所：日本青年館ホテル

主催：清溪セミナー実行委員会

参加：現地出席（他に、オンライン、オンデマンドもあり）



記載事項の次第について

- < 講演次第タイトル >
- < 講師と、講義の趣旨 >
- < 講義に関する所感 >
- < 第 28 回清溪セミナーの趣旨 >
- < 清溪セミナーの趣旨についての考え >

< 講演次第タイトル >



- 講義 1 二人は同時に親になる～『産後』のずれの処方箋
講師：狩野さやか氏（子育てアドバイザー・ライター）
- 講義 2 地域における顔の見える切れ目のない子育て支援
講師：井上 登生氏（小児科医）
- 講義 3 子どものたちのところと命を守るために
～学校にアウトリーチする NPO～
講師：重永侑紀氏（にじいろ CAP 子ども NPO センター福岡代表
理事）
- 講義 4 こども家庭庁の創設とこども政策
講師：山田太郎氏（参議院議員）
- 以降、10月18日日程講義分
- 講義 5 子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる
講師：泉 房雄氏（前明石市長）
- 講義 6 ヤングで終わらないヤングケアラー
講師：仲田海人氏（作業療法士）
- 講義 7 全ての子どもの成長と、子育てを支えるために
講師：野田聖子氏（衆議院議員）

<講師と、講義の趣旨>

- 講義 1 二人は同時に親になる～『産後』のずれの処方箋
講師：狩野さやか氏（子育てアドバイザー・ライター）
講師は、早稲田大学卒。企業のデザイナーとして、ウェブやアプリの製作に携わる。産後の夫婦の協業をテーマにしたワークショップなどを展開する。
講演は、子育てに関する夫婦のずれとその対策を述べる。



講義 2 地域における顔の見える切れ目のない子育て支援

講師：井上 登生氏（小児科医）

講師は、福岡大学出身、その福岡大学で臨床教授（小児科学）を務める一方で、井上小児科医院の院長、現在は理事長を務める。社会活動では、小児学会や政府・自治体で専門家としての立場を発揮している。著作も小児に関する研究を多数発表している。

講演は、地域における顔の見える切れ目のない子育て支援とし、多種目の人がかかわって、顔が見える連携協働で子どもを見守る実践活動を語る。

講義 3 子どものたちのところと命を守るために

～学校にアウトリーチする NPO～

講師：重永侑紀氏（にじいろ CAP 子ども NPO センター福岡代表理事）

講師は、NPO 法人 にじいろ CAP 代表理事、NPO 法人子ども NPO センター福岡代表理事、認定 NPO 法人 CAP センター・ジャパントレーナー。

講演は、実績として、多数の講演会・研修・ワークショップの開催。その中で小学校の授業でのワークショップ 300 クラスで実施などが述べられる。



講義4 こども家庭庁の創設とこども政策

講師：山田太郎氏（参議院議員）

講師は、参議院議員2期目（比例区選出、1期目みんな党で繰り上げ当選、3年の落選期を経て、2期目自民党比例区で2位当選）。外資系企業に勤務後、会社設立し、3年半で東証マザーズに上場。デジタル分野を主に担当し、こども家庭庁創立に中心的一かかわる。

講演は、こども家庭庁の創設の経緯と役割を政権党の担当者として、基本と課題を述べる。



以降、10月18日日程講義分

講義5 子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる

講師：泉 房雄氏（前明石市長）

講師は、直近まで全国で最も有名自治体市長（前明石市長）でした。元衆議院議員、弁護士、社会福祉士とご自身で説明。

講演は、3期12年 市長としてどのような市政を作ってきたかと言うものでした。こども施策を中心にすえて市政を転換させて成果を述べられました。今回も、講師としてとても人気を博していました。



講義6 ヤングで終わらないヤングケアラー

講師：仲田海人氏（作業療法士）

講師は、作業療法士。小学生時代からきょうだいヤングケアラーを経験。栃木県ケアラー推進協議会委員。那須塩原市ケアラー協議会 立ち上げメンバー。

講演は、自身のヤングケアラー体験に基づき、ケアラー期間が長期化していること、そのことに対する対策を述べる。

講義7 全ての子どもの成長と、子育てを支えるために

講師：野田聖子氏（衆議院議員）

講師は、元こども政策担当大臣、衆議院議員（10期）。元総務大臣。自民党総裁選にでた経験（国会議員の推薦人が20名以上必要）もある。

講演は、数字に基づいた、家族の変容、男女間格差などを現状分析して解説。

<講義に関する所感>

便宜上、政治家と、その以外の方の講師で分けて記載します。

まず、政治家の3名に関して記載。

ついで、政治家以外の方々について記載。

○政治家以外の講義に関する所感（4名）

- 講義 1 二人は同時に親になる～『産後』のずれの処方箋
 講師：狩野さやか氏（子育てアドバイザー・ライター）
- 講義 2 地域における顔の見える切れ目のない子育て支援
 講師：井上 登生氏（小児科医）
- 講義 3 子どものたちのところと命を守るために
 ～学校にアウトリーチする NPO～
 講師：重永侑紀氏（にじいろ CAP 子ども NPO センター福岡代表理事）
- 講義 6 ヤングで終わらないヤングケアラー
 講師：仲田海人氏（作業療法士）



共通点は、現場に携わって活動しているということでした。

仲田海人氏（作業療法士）の場合は、自己のケアラー体験が作業療法士として歩む道を作り、さらに勤務者としては、ケアラーの役割が果たせないということで独立の道を選択されたということでしょう。ただし、その立場に留まらず、ヤングケアラーの人材が将来の歩むべき道を提案していると言えるでしょう。さらに、それを社会課題として取り組み、地域連携を果たすコーディネーターとして歩まれているということでしょう。

狩野さやか氏（子育てアドバイザー・ライター）は、子育ての問題を社会問題としてとらえる視点ではなく、子どもを育てる夫婦の問題として提起しています。つまり、「小さな社会」の中で問題解決を図っていこうという視点を提起しています。一見、社会政策を軽視しているのではないかとも見られる可能性があります。今日の問題に答える視点でもあり、別の視点では、子育てに対する男女間の意識の差を埋め合わせる現実的な対応を提起していると思いました。

井上 登生氏（小児科医）は、子どもの虐待防止の活動、その体制づくりの大事さを実践されている現職医師であり、地方の小規模都市（大分県中津市）の施策として、広域連携の体勢づくりの一方、顔の見える関係づくりを求めています。妊婦中からのケアとして、保健師の役割を重視し、親と直接あうことの必要性を説いています。ごく当たり前の指摘であるようですが、虐待に至る問題発生を、当事者の生活を見ることの重要性を理解してのことでしょう。

重永侑紀氏は、前の 3 名と異なり、個人として人と接する対応ではなく、グループとして、組織（学校、教育委員会、自治体）への講演、研修、ワークショップを実施する NPO 法人として活動しています。そうした方法を取ることで、大規模事業所でないにも関わらず、児童の虐待防止活動に大きなかわりを持つ方法を進めています。世帯が大家族世帯から少数世帯に、さらに児童がいない世帯が圧倒的な割合に歴史転換したことを前提にした、子ども問題の対応プログラムを提起していることが、組織に受け入れられている背景ではないでしょうか。

○政治家の講義に関する所感（3名）

講義 4 こども家庭庁の創設とこども政策

講師：山田太郎氏（参議院議員）

以降、10月18日日程講義分

講義 5 子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる

講師：泉 房雄氏（前明石市長）

講義 7 全ての子どもの成長と、子育てを支えるために

講師：野田聖子氏（衆議院議員）



この 3 者の共通点は、行政の執行権を有していることだと思います。政府の

大臣や政務官を務めたり、あるいは首長として辣腕ぶりを発揮した人物です。

山田太郎氏は、政界で最もデジタルに詳しい人物の一人と言うか、筆頭でしょう。経歴上からも明らかです。子ども問題の対策では、予算付けをする、法案作成に自身の考えを盛り込む、あるいは政府に新しい組織を立ち上げるなど、その手法が腕力を用いる方法から、合理的な施策提唱を優先しているように思えました。マイナンバー制度が充実すれば、問題解決が促進されるという考えがにじんでいましたが、政府のその推進策自体が不合理的（金銭のばらまきのな給付施策の実施）手法を持ってされている点に疑問があります。

野田聖子氏は、一貫して政権与党の中で目立った存在でした。ただし、何度か、主流派では無い道を歩みながら前進する中で、その存在感を増してきます。自民党の中で孤立したような子育て施策の提唱が今や、自民党の主要施策に転換している様相です。

こども家庭庁の創設は、こども庁の推進を図った結果実現したものであり、自民党内での志向の相違があった上での実現例と見ています。子ども施策の推進の中で、民間の賃金の男女格差、政治では議員数の男女による極端な差異に注目していることに関して、地方議会において議員数の男女差は早晩縮小するのではないかと思います。それは意外なことに、議員報酬額のアップが停滞したり、あるいは減少する事態が続き、職業としての議員生活が引き下げをもち、男性議員の減少につながっていくと思います。そうした消極的な理由があって、地方議会の男女議員数の是正につながっていくのでは無いでしょうか。当然、地方議会の女性議員割合が増えれば、女性の視点に基づく施策提唱が増加するでしょう。

泉 房雄氏は、前明石市長として、次々と、子ども施策を打ち出し、明石市を発展させ、政治家として高い評価を定着させてきました。歯に衣を着せない発言で反感を買ったり、あるいは敵を作りました。議員の多くは反 泉派であるように思われましたが、首長が議会に対して圧倒的な力を持っていることを証左してきました。泉 房雄氏が提起、推奨した施策は全国の自治体首長に支持され、いや、それ以上に地方議員に支持されています。地元の明石市では、議会に強力な反対派が存在しましたが、他の地方では首長と地方議員双方に支持されるのではないのでしょうか。今後、大阪維新の会と異なった、あるいは対立する施策を持って、地方自治体の主流派争いを展開してくるのではないのでしょうか。

<第 28 回清溪セミナーの趣旨>

今回は全部の講義項目が子ども施策に絞られ、講師の選定、講演内容もそれに絞られました。著名な国会議員（2 名）、有名な前明石市長を片方に、もう片

方には、小児科医や作業療法士をはじめ、専門家として現場から支える人材や、行政と提携した NPO 法人の代表者や子育てアドバイザーの人材を盛り込み、課題に切り込んだ話と、全部の講師に対する質疑応答が行われました。

講師の一方通行的な話ではなく、参加者がその場でメモしたものに、オンライン参加者がチャットで送信したりリアルな質疑に対して、しっかりした応答がありました。従来の講演が時間一杯に講師がテーマの趣旨や背景、あるいはその外延を述べて終わるスタイルが多いのですが、清溪セミナーは、参加者と講師のやり取りに重点を置くことにも重点を置いており、今回はその進行手順がもっとも合理的に行われました。

大勢の参加者に感動を与えながら、今年の清溪セミナーが終了しました。



<清溪セミナーの趣旨についての考え>



講義に関する、参加者の質疑は、出席者が配布された質問事項カードに記載して提出になっており、講義の進行中でも、終了後でも受付がされており、オンライン追加導入後は、チャットも質問も可能としました。それを司会進行役が内容ごとに分類して、講師に尋ねる方式を取っており、質疑応答がタイトに整理される方法となっていました。

今期、1名の講師の方で提出質問が少なかった時（講演内容が難しかった？）には、会場内から参加者が手を挙げて質問する例が出て、その応答との間に次の質問者が出るなど、セミナー参加者の質の高さを表したものだと思感しました。ちなみに、筆者は質問を一度も出さずに終了しました。以下に述べる理由です。

この清溪セミナーは、超党派地方議員の勉強会であることが特徴です。運営は、青年団運動という地域の中で政治家になった人たちが創り上げ、一方で市民運動と言うスタイルの活動の中から政治家になった人たちが参加し、次いで、ネットやSNS発信をする政治家が参加してきたものが合わさったもので、いわゆる若手議員に限らない立場、時代を読み取ろうという政治家が中心になっていると思われる存在です。

自分自身が一議員としてこの清溪セミナーの実行委員会に参加しており、他社をフォローするポジションにあると思っています。他を補う役割を果たすという考えでいます。他の議員の学びを通じて、自分の勉強となす、と理解しています。

これからの地方議員にとって、何より大事なことは自分があるところから勉強したことを、独自性をもって表現できることではないかと思っています。